

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2019年
No. 98
2019年5月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会
THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2019 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

SNSによる「出会いの変化」が 梅毒増加の原因か? …………… 1	性教育の現場を訪ねて②⑥…………… 8
思いこみのめがね⑭…………… 6	今月のブックガイド…………… 10
多様な性のゆくえ⑳…………… 7	JASEインフォメーション…………… 11

SNS による「出会いの変化」が 梅毒増加の原因か？

利根中央病院産婦人科 鈴木陽介

10代女性でも増える梅毒

国内での梅毒患者数の増加が社会問題となっている。国立感染症研究所の発表によると、2000年以降、梅毒患者の新規届出件数は、2012年までは年間500-900件で推移していたが、2013年は1228件、2014年は1661件、2015年は2690件、2016年は4575件、2017年は5826件、2018年は7002件と増加を続けている。今回の流行以前は男性の感染者が多く、感染者数に占める女性の割合は2割程度であった。しかし、今回の流行では、患者の約3分の1が女性であり、とりわけ若年女性での報告が多いことが特徴的で、ピークこそ20代～30代であるが、2016年には104名、2017年には131名、2018年には217名の10代女性の感染が報告されている。

この2013年からの梅毒患者の届出数増加の原因として、いくつかの仮説がある。ひとつの説が、同じく2013年より急増した外国人観光客を通じて国内に広

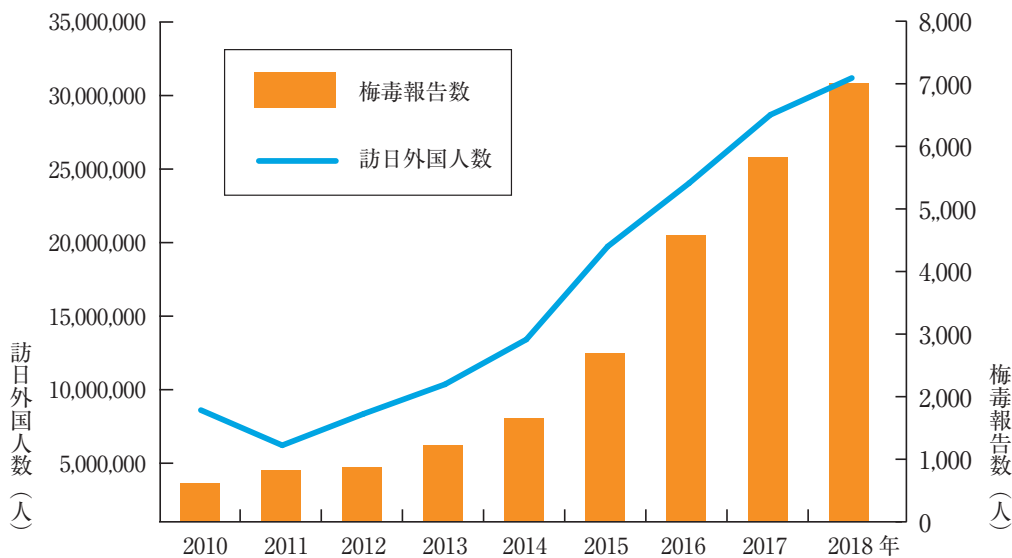
まったという「海外流入説」である。2013年にはじめて1,000万人を超えた日本政府観光局発表の訪日外国人数は、2016年には2,400万人を超え、2018年には3,100万人を超え、2019年に入っても前年同月比でプラスが続いている。外国人観光客が増えたことで、これまでは外国人客の利用を制限していた性風俗産業での利用の解禁が相次いだ。その結果、日本と比べて梅毒の有病率が高い国の旅行者から国内の性風俗産業従事者への感染が増え、そこから国内に広まった、という説である。

実際、21世紀に入り、日本に先行して、アメリカ、カナダ、オーストラリア、欧州のいくつかの国で男性を中心として梅毒患者数が増加しており、また、訪日客が急増している中国での有病率の高さもあって、海外流入説は支持されている。

会うはずがない人と出会う SNS

また別の説として、SNS（ソーシャルネットワーク

訪日外国人数と梅毒報告数



ングサービス)の利用を通じた「出会いの変化」が梅毒の広がりに影響を与えている、という「SNS 関与説」がある。SNSとは、インターネットを介して人間関係を構築できるwebサービスの総称であるが、なかでも婚活アプリや出会い系アプリともいわれる会員制のマッチングアプリは、国内では2012年にサービス開始が相次ぎ、2013年より爆発的に広まった。これらのオンラインマッチングサービスの売り文句は「普通なら会うはずがない人と出会う機会」の提供である。

これらのアプリでは、インターネット上、多くはスマートフォン上で、アプリを利用しなければ知ることのなかった相手と簡単な操作で知り合いになることができる。数多くのサービスがあり、多くは登録にFacebookのアカウントや電話番号などが必要だが、登録すると、多くの「相手候補」が表示されるのが一般的だ。その「相手候補」の中から手軽に「お互いが気に入りそうな相手」を見つけられる仕組みがウリになっている。その人気は高く、最大手のPairs(ペアーズ)は、同サービスのインターネットサイトの記載によるとすでに利用者が1,000万人を超えているという。

こうしたサービスは必ずしも「出会った」相手との性交渉を目的として利用されているわけではない。しかし、これらのサービスの普及が、不特定多数あるいは未知の相手との性的接触機会の増大につながり、梅毒感染者の増加に影響を与えた可能性が指摘されている。

マッチングアプリ利用率が高い県は梅毒感染率も高い

「海外流入説」と「SNS 関与説」、いずれも時系列からは有力な梅毒患者数増加の原因候補だと思われるが、影響がより大きいと考えられるのはどちらであろうか。

国立感染症研究所のデータ(次ページ表2参照)から2017年の都道府県別の人口10万人あたりの梅毒報告数を計算すると、1位の東京都が12.90、2位の大阪府が9.44、この年急増した3位の岡山県が8.86となっているのに対し、島根県は0.73、秋田県は0.80と上位と下位で10倍以上、感染者率に差がみられる。

筆者はこの「差」に注目して、共同研究者らと人口あたり梅毒報告数とマッチングアプリ利用率の間で相関解析を行った。マッチングアプリにはそれぞれ特色を持った多くのサービスがあるが、今回の解析では公表しているユーザー数が上位のもののうち、都道府県別のデータが利用可能であった3社のアプリを対象として選択した。アプリに登録しているが利用していないユーザーの影響を避けるため、解析時点から3日前までの間にアプリを利用していたユーザー数を都道府県の総人口で割ったものを利用率として使用した。

相関係数が1に近いほど関係が深いといえるのであるが、前述の都道府県別の人口あたり梅毒報告数と、3社の利用率との間の相関係数をそれぞれ計算すると

表1 主なマッチングアプリとサービス開始時期（参考）

Tinder (Tinder社)	2012年
Omai (ネットマーケティング)	2012年
Pairs (エウレカ)	2012年
タッブル誕生 (サイバーエージェント)	2014年
ゼクシィ恋結び (リクルートマーケティングパートナーズ)	2014年
with (イグニス)	2015年

最も相関が強いもので0.76、低いもので0.64であった。3社のいずれもで、アプリの利用率が高い都道府県ほど、人口あたり梅毒の新規報告の割合が多い傾向があるということができ、「SNS 関与説」を支持する結果であった。結果の詳細は2018年11月の日本性感染症学会で報告（「梅毒症例報告数とマッチングアプリユーザー数の都道府県別相関」日本性感染症学会誌 29巻2号 Page263に抄録掲載）し、データを追加したうえで論文投稿中である。

続いて「海外流入説」を検証するために、同様の手法で解析した。前述の観光局発表の訪日外国人数は都道府県別のデータが得られなかったため、観光庁発表の宿泊旅行統計調査を利用した。同調査から計算した都道府県別の人口あたりのべ外国人旅行者数と人口あたり梅毒新規報告数の相関係数を計算すると0.14とほとんど相関はなかった。実際、人口あたりのべ外国人旅行者数の上位は、沖縄県、京都府、山梨県、東京都、北海道であり、東京都を除いた4道府県での梅毒感染者率は高くない。「海外流入説」を支持するとはいえない結果である。

他に、海外からの人口移動の影響をみるものとして人口あたり在留外国人数、国内での人口移動の影響をみるものとして人口あたり他都道府県からの年間転入数、性風俗産業の影響をみるものとして人口あたりの無店舗型性風俗特殊営業1号（いわゆるデリヘル、派遣型ファッションヘルス等）届出件数、セクシャルアクティビティの影響をみるものとして出生率と中絶実施率で同様に計算をしたが、マッチングアプリの利用率との間の相関係数を超えるものはみられなかった。

海外から流入し SNS で拡大

これらの解析は、国内の梅毒の感染者数増加に占める、マッチングアプリの普及の寄与度が外国人旅行者数の増加より高い可能性を示唆し、この結果からは海

表2 都道府県別梅毒報告数（2017年）

	梅毒報告数 (人)	対前年増減 (人)	人口10万人 あたり報告数
北海道	110	-8	2.05
青森県	63	35	4.85
岩手県	16	7	1.27
宮城県	62	33	2.63
秋田県	8	-1	0.80
山形県	13	-6	1.18
福島県	67	-2	3.56
茨城県	57	-12	1.94
栃木県	59	13	2.96
群馬県	64	31	3.27
埼玉県	234	41	3.17
千葉県	141	1	2.24
東京都	1778	107	12.90
神奈川県	319	29	3.50
新潟県	31	-18	1.37
富山県	15	3	1.52
石川県	23	8	2.01
福井県	23	8	2.95
山梨県	14	6	1.58
長野県	30	10	1.45
岐阜県	69	36	3.44
静岡県	86	25	2.34
愛知県	344	85	4.45
三重県	59	20	3.22
滋賀県	28	-2	1.91
京都府	84	15	3.19
大阪府	842	251	9.44
兵庫県	198	14	3.56
奈良県	29	-7	2.15
和歌山県	20	2	2.01
鳥取県	10	2	1.42
島根県	5	3	0.73
岡山県	172	132	8.86
広島県	138	89	4.88
山口県	22	12	1.59
徳島県	14	3	1.88
香川県	72	46	6.62
愛媛県	40	17	2.93
高知県	23	10	3.08
福岡県	227	119	4.43
佐賀県	17	2	2.06
長崎県	18	6	1.26
熊本県	79	63	4.36
大分県	18	6	1.56
宮崎県	21	12	1.93
鹿児島県	21	3	1.29
沖縄県	43	2	2.91

出典：国立感染症研究所

外流入説より SNS 関与説が有力なように感じられる。もちろんこの解析からは、3社それぞれのマッチングアプリを使っている人の割合が高い県ほど、梅毒を新規に発症する人の割合が高い傾向がある、という事実のみがいえ、マッチングアプリによる出会いが梅毒の感染の原因である、という因果関係はいえないことに注意が必要である。また、今回解析の対象としたアプリは「異性間」の出会いを目指すアプリの中で、都道府県別のユーザー数が得られたものである。他社のアプリ、中でも「同性間」の出会いを目指すアプリでは違う結果が出た可能性はある。

梅毒患者数の増加について、他にオーラルセックスの増加などの性行動の変化、店舗型から無店舗型への性風俗業の業態の変化、そして、医療現場および社会における梅毒の認知度が上がってきたことによる報告バイアスが要因として指摘されている。また、仕事としては異性間で性的接触を行っているがプライベートでは同性間が中心、またはその逆、もしくは日常的に同性とも異性とも性交渉を行っている、といった層が一定数いると考えられており、そうしたグループが男性から女性への流行拡大の契機になった可能性も示唆されている。

おそらく原因がひとつということはなく、複数の要素が影響しあい梅毒は広がっているものと考えられる。例えば、前述した人口あたりのべ外国人旅行者数と人口あたり梅毒新規報告数の0.14という相関係数は2017年の値であり、2011年以降で同様の計算をすると2014年時点の0.53をピークに、2015年には0.36、2016年には0.34と下がってきている。この結果は、今回の流行が、まずは海外からの梅毒の流入ではじまり、その後、SNSを介して日本人から日本人へ広がっている、という位相の変化を表しているのかもしれない。マッチングアプリの利用率でも2016年以前の相関係数の値が計算できればそうした変化をより可視化しやすいと思われるが、残念ながら都道府県別の2016年以前のデータは得られなかった。

売り買いかどうかより出会いの場が重要

現時点で日本における梅毒発生について利用可能な公開データには、都道府県毎、もしくは、管轄保健所毎の週毎の梅毒発生報告数があるが、これに付随する

情報は性別、年齢、病期および感染の原因と推測される性行為が同性間によるものか異性間によるものか等に限定されており、感染経路の分析や予防政策の立案には不十分である。こうした議論を受けて2019年から医療機関からの届出内容に性風俗産業従事歴・利用歴の記載等が追加されたことは重要な一歩である。

しかし、「パパ活・ジジ活」「リフレ」「シュガーコミュニティ」などの言葉で語られる、売買春におけるプロフェッショナルと個人のボーダーレス化が進み、金銭の授受を性的サービスの見返りとはっきりさせない関係が増えている。この辺りの事情は坂爪真吾氏の『未来のセックス年表』(SB新書)や『見えない買春の現場』(ベスト新書)に詳しい。未読の方にはぜひお勧めさせていただきたい。例えば、パパ活をしている女子高生と、リフレで働く女子大生、愛人契約をしている社会人女性、このうち性風俗産業の従事者といえるのは何人だろうか。

こうした状況で性風俗産業の従事・利用の有無で分析することは、梅毒感染の実態をより不透明にしていく可能性があると考えられる。実態の解明には、金銭の授受の有無ではなく、性的接触があった相手とどんな経路で出会ったのか、すなわち業者から紹介を受けたのか、SNSを利用したかどうか、自分に相手の選択権があったのか、などの情報が重要なのではないだろうか。新宿区や岡山市における感染症法第15条に基づく積極的疫学調査のように、全国一律の全数調査と並行して他の疫学調査ができる体制を整備していく必要があると思われる。

SNSは取り締まりでなく活用を

前述の『未来のセックス年表』には坂爪氏の“スマホは「人類史上最強の売買春ツール」なのかもしれない”とのドキッとさせる言葉が出てくる一節がある。1980年代のテレクラ、1990年代の援助交際、2000年代の出会い系サイトと、時代の変化や技術の進歩とともに出会いの場は変わり続け、2010年代のSNSやスマホのマッチングアプリは出会いの場の主役になってきた。

しかし、当然のことであるが、SNSが梅毒の感染経路になっているから取り締まらなければならない、といった結論を出してはならない。そもそも国境を越

えたコミュニケーションツールとして発達している SNS をひとつの国で制限することは非現実的である。また、SNS 上の情報は、ときに大きな間違いもあるが多数の目に触れていく中で情報が適正化してくるといふ性質もある。

例えば、Twitter で「梅毒」のワードで検索すると、医療者や保健所からの情報提供、メディアからのニュースに混じって、梅毒罹患者の周囲への性感染症検査の呼びかけや、性風俗産業従事者が自分と関わりのあった「梅毒疑い」の人物の背格好やしゃべり方などの情報を同業者と共有、注意喚起をする投稿が出てくる。「梅毒が増えている」という情報が広まることで感染予防につながる情報も増えているのだ。また、Vtuber として YouTube 上で動画配信・投稿を行うバーチャル花魁の「由宇霧」氏のようにインターネット上で影響力を持ち積極的に性教育や性感染症について発信する存在の登場も SNS での宣伝や口コミという背景があってこそのものである。

ヒントは SNS

これまでみてきたように、国内における梅毒感染者数の急激な増加は、SNS の利用の広がりによる「出会いの変化」が一因であった可能性がある。

2019 年に入っても梅毒の新規発症者の報告は続い

ている。SNS の中でも、今回取り上げたマッチングアプリでの出会いから Instagram などでのハッシュタグを利用した出会いに変わり、さらに TikTok へと出会いの場のトレンドが変わっているという報告もある。梅毒の流行はこれから落ち着くのか、さらに広がってしまうのか。冒頭で 2016 年に 104 名、2017 年に 131 名、2018 年に 217 名と増加をみせる 10 代女性の梅毒感染について述べたが、10 代男性の発症も 2016 年には 47 名、2017 年には 58 名、2018 年には 86 名と少しずつであるが増えている。社会は常に変化し、出会いの形も変わっていく。若者ほど変化に敏感であることを考えると、全体での流行が収束しても、若年層での感染者数の増加はさらに進むことになるかもしれない。

望まぬ感染を減らすためにわれわれにできることは何であろうか。今年の 2 月、目のかゆみを感じながらも「花粉症」であると認めたくない人を Twitter 上で人工知能が勝手に見つけ出し、花粉症対策グッズをおせっかいにもプレゼントするというロート製薬の企画が話題になった。これは花粉症での例であるが、もしかすると、SNS 上の投稿内容等の公開情報から梅毒に罹患しているリスクが高い人を見つけ、検査を促す人工知能の開発も可能かもしれない。他にもいくらでも可能性はあるだろう。やはりヒントは SNS にあるのではないだろうか。

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約 6 万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です (tel 03-6801-9307)。貸出業務は行っていません。

【開室日・時間】月～金曜日 10:30～17:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※その他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず 1 枚 10 円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献 ・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>

思いこみ の めがね

シゲせんせーのポジティブライフ

鈴木茂義 Suzuki Shigeyoshi



公立小学校非常勤講師。14年間の公立小学校正規教諭、主任教諭を経験。
専門は特別支援教育、教育相談、教育カウンセリングなど。

みなさんは自分の人生の記憶は、何歳から残っていますか？胎内記憶というお母さんのおなかの中にくるころを覚えている方もいるようですが、私は5歳か6歳のころ。当時通っていた保育園が、自分の記憶の一番最初のような気がします。田舎の利根川の近く、自然に囲まれた土手沿いの保育園でした。春になると土手に、ツクシやレンゲ、カラスノエンドウやタンポポが咲き誇り、それを眺めては遊んでいました。心の中での原風景です。

そんな自然に囲まれた保育園の中で私は、すくすくと育っていました。見える景色は周りの自然、保育園の担任の先生、友達だけでした。自分の興味のあることに没頭し、それ以外は見ること必要もない。両親の悩みや家の状況も何も知らず、もちろん自分の性的指向も知らず気づかず。幸せだったと思います。

保育園の園庭をはだして駆け回り、どろ団子や竹馬で友達と遊んでいました。毎日決まった時間にあるお昼寝が大嫌いで大嫌いで、よく担任の先生を困らせていました。お気に入りの絵本は『おいしいのぼうけん』。なかなかお昼寝をしなかった私は、お昼寝部屋にあった押し入れに潜り込み、それを一人で読んでいました。

割と活発だった私は、保育園の中では運動で活躍することが多かったです。走るのも速かったし、竹馬も跳び箱も上手でした。特に本物の竹で作った竹馬が好きで、「どれだけ高い竹馬に乗ることができるか」を友達と競っていました。竹馬がどんどん高くなっていましたが、担任の女性の先生に「シゲヨシ君、危ないからやめなさい」と言われたことは一度もありませんでした。運動の中で、どうしても敵わない女の子が一人いました。足も速いし、竹馬も鉄棒も上手。私と同じように、時間があると園庭を走り回っている子だったので日に焼けていたことを今でも覚えています。

保育園最後の運動会のことを、とてもよく覚えています。競技の最後にリレーがありました。私が赤チー

ムのアンカー。彼女が白チームのアンカーだった気がします。私は2位でバトンを受け取ったのですが、リレーで彼女を追いこすことはできず、2位でゴールをしました。悔しくて泣きました。ただでさえ「女の子に負けて悔しい」のに、追い打ちをかけるように担任の先生から「シゲヨシ君、男の子は泣くんじゃない」と言われ、父からも「男のくせに泣くんじゃない」と言われました。このとき私は6歳になっていましたが、この世に命を受けてたった6年で「男らしさ・女らしさ」の壁にぶつかっていたのだと思います。

性的指向の目覚めは、小学校に上がってからでした。小学校1年生か2年生なので、年齢で言うと7、8歳だったと思います。近所の男の子で集まって缶蹴りやサッカー、秘密基地づくりに木登りと毎日遊んでいました。同い年の友達もいましたし、その友達のお兄ちゃんもいました。

自分より年上のお兄ちゃんは、何をして遊ぶのも上手でした。缶蹴りでは上手なところに隠れ、少しでも隙があるとすごいスピードで隠れているところから走って缶を蹴る。木登りも高い場所まで

どんどん登っていき、そんな様子をいつも眺めていました。「かっこいいなあ、自分もいつかあんな風になりたいなあ」という、憧れの気持ちがどんどん強くなっていきました。私は4人兄弟の長男なので、家に帰ると自分より年上のお兄ちゃんはいません。その状況も、お兄ちゃんに対するあこがれを大きくしたのかもしれない。

ある日、お兄ちゃんたちと遊んでいるときに、私がふざけながらお兄ちゃんの背中にぴったりくっついていたことがありました。その背中越しにぬくもりが伝わってきて、「あったかいなあ。気持ちいいなあ」と思っていました。あまりにもくっつき過ぎていたので、そのお兄ちゃんから「おい、シゲ！男にそんなにくっつくなよ！」と怒られました。びっくりしてすぐに離れたものの、「お兄ちゃんにはくっついてはいけないのか」ということを強く意識した瞬間でした。（いま考えると、異性同性かかわらず距離が近すぎたことがダメでした）

第14回

「男にそんなにくっつくなよ」 幼少期から小学校

多様な性
のゆくえ

One side/No side [25]

もちろん法律も変わっている

性や薬物使用など HIV/エイズ対策にかかわる分野で、社会的な差別や偏見を助長する法律がいまも多くの国で存在している。国連共同エイズ計画（UNAIDS）はこう指摘し、差別ゼロデーの3月1日から新たなキャンペーン『いまこそ動こう 法律から差別をなくすために』を開始した。エイズ予防財団が啓発冊子を日本語に訳し、API-Net（エイズ予防情報ネット）に PDF 版を掲載したのでご覧ください（欄外下アドレス参照）。

世界はいま、どんな状態なのか。冊子が紹介する「ファクト」によると、夫婦間のレイプは世界の112か国で犯罪にならず、45か国ではセクシャルハラスメントを対象にした法律がない。女性と男性の扱いが異なる法律が少なくとも一つはある国は150か国に達し、このうち63か国では5つ以上ある。

同性間の性関係を犯罪としている国は67か国で、少なくとも8か国では死刑となることもある。旧知のUNAIDS関係者によると、「差別ゼロデー」は HIV/エイズ関係の記念日としては、12月1日の世界エイズデーに次いで重視されているという。

ただし、歴史は浅い。2013年12月1日に創設が発表され、翌14年3月1日が第1回差別ゼロデーだった。今年が第6回となる。

医療の専門家の間では一時、治療の進歩でエイズの流行は終わるといった楽観論が広がったことがある。

だが、実際には治療の進歩を生かすためにも、人権を尊重し、社会的な不平等や偏見、差別の解消に取り組まない限り、問題は解決しない。そのことが次第に、そして改めて、はっきりしてきたことが、新しい記念日として差別ゼロデーが創設された背景にはあり、それがついに「法律を変える」という具体的な行動を呼びかける段階にまで到達した。今年のキャンペーンを勝手に深読みすれば、そういうことだろう。

冊子には『エイズ対策を変えた2018年の法的な動き』として次のように書かれている。

『インド最高裁は2018年、同性間の性交渉を違法

と定めた刑法第377条を無効とする決定を下しました。フィリピンでは2018年、若者が親や保護者の承認なしに自発的 HIV 検査サービスを受けられるよう承諾年齢規制が15歳に引き下げられました。マラウイでは2018年、HIVの非開示、曝露、感染行為を犯罪とする条項が HIV 法案から外されています』

具体的な変化が過去1年の間に相次いで起き、UNAIDSも『行けるぞ』という手ごたえを感じたのではないか。とくにインド最高裁の決定が大きかったと思う。

例によって聞きかじりの知識で恐縮だが、インド刑法377条の同性間性行為禁止規定は、インドが英国の植民地支配のもとにあった150年前から続いていた。1861年にヴィクトリア女王時代の英国が同性間の性行為を禁止したことから、かつて英植民地だった多くの国に同様の法律ができ、大半は形骸化しているが、それでも撤廃されずに残っている国がある。

インドの場合、2009年7月2日にデリー高等裁判所が、この禁止規定を違法とする判決を出し、その形骸化にも決着がついたように思われた。

ところが、一部の宗教団体がこの判決を不服として上訴し、4年後の2013年12月にはインド最高裁がデリー高裁判決を覆して同性間の性交渉を違法とする判断を示している。

一方、インド政府は「高裁と意見の相違はない」として上訴に加わらず、行政と司法の判断が乖離する状態にもなっていた。新たな最高裁決定は積年の論争に終止符を打ち、インドがようやくヴィクトリア朝時代の英国の呪縛から解放されたということでもある。UNAIDSの冊子には『人がその人であるという単にそれだけの理由で異なる扱いをしたり、必要なサービスから排除したり、生活上の禁止規制を設けたりすることを定めている法律は世界の多くの国にあります』とも書かれている。日本はどうか。例えば、前号で紹介した同性婚訴訟についても、いま起こるべくして起こされた裁判だったとの感を改めて強くした。

[東京都港区立港南中学校] (下)

修正・改善を重ねて構築した性教育の指導

2011年から全学体制で性に関する指導に取り組んでいる東京都港区立港南中学校。大きな特徴は、講師や養護教諭による授業ではなく、各学年ともに学級担任が性教育の授業に取り組んでいることである。よりよい指導を目指してどのような変遷をたどってきたのか。

ここに至るまでの取り組みを紹介する。

「教師のやりがい」につながるまで

「性教育は、人格を形成するための基礎教育である」
— 渡辺一信前校長の信念のもと、学級担任による性教育がスタートした。

2年目からは、性教育の方向性を示すため、堀内比佐子氏（全国性教育研究団体連絡協議会事務局長）を講師として招き、毎年校内研修を行っている。

学習指導案は、教職員の負担が軽減するよう、まず養護教諭が土台をつくる。それをもとに学年の指導案担当者が作成。各学級の担任に指導案を示し、共通理解をはかって教材をつくり授業を実施するシステムができあがった。

とはいえ、養護教諭や体育科教師と違って、学級担任にとって、性教育は初めての試み。最初のころの指導案は、性教育の視点から離れていて、いわゆる学活の延長上の男女の協力や関わりといった内容のものしか出てこなかったという。

そこで、学級の行事を通して男女が協力する人間関係の部分をベースに、徐々に性教育（性成熟に伴う性意識行動）の視点を加えて学びの転換を図っていった。

また、授業を実施するにあたり、教員たちにとっては生徒の反応も不安のひとつだった。しかし、実際に授業を始めると、性について教師が真剣に教えれば、生徒もまじめに質問をしていくことがわかってきた。授業を通じて生徒たちが、性は恥ずかしいものではなく、自分と他者をつなげる大事な生き方なのだと受け止められるようになると、休み時間や放課後に、性を題材に友達をからかって遊ぶこともなくなってきたと

東京都港区立港南中学校

校長 佐々木希久子（3月まで渡辺一信）

生徒数 299名

教職員数 33名

（2019年4月現在）

渡辺前校長はいう。

「目に見えて成果がでてきました。そのことを、担任がいちばん実感したようです。性教育に消極的だった教員も前向きに取り組むようになり、性教育に対する抵抗感もなくなってきました。むしろ性について子どもと真正面で話し合えるようになり、生徒たちもまた、性に関する悩みを担任に相談するようになりました。こうした信頼関係を築けるようになったことが、教師としてのやりがいや充実感につながっていったようです」と渡辺前校長は、当時を振り返る。

過去の指導案を参考にアップデート

生徒数が増えて学級も増えると、各担任によって、授業内容に微妙な差異が生じてくるようになった。そこで平成26年からは、指導案を略案形式から、シナリオ型へと切り替えた。

きめ細かな指導案をつくることで、学年で統一した指導実践が可能になったという。

また、長年積み重ねてきたこれら指導案をファイルにまとめ、各教員がパソコン上で情報を共有できるようにもした。教員たちは、過去の指導案を参考にしながら目の前の子どもたちの様子を踏まえ、現在に即した内容にアップデートする。より深まった内容の課題の指導案が作成されるようになった。

性教育指導実施までの流れ

学期ごとに①～⑤の行程を踏んで授業を実施する

内 容	担 当
4月／性教育年間指導計画の配布と今年度の方針の説明 ・各学年による年間性教育指導計画内容討議	性教育実施委員会
①性教育内容の管理職確認 ②指導案担当者による指導案作成 ③指導案について、指導案担当者と性教育担当、管理職協議 ④性教育指導案提出	指導案担当 学年担当
⑤教材作成	教材担当
性教育授業の実施	各学級担任 性教育実施委員会



2年生の授業の様子

【例】性教育指導案 指導学年2年生の場合（一部抜粋）

1. 主題／男女交際について考えよう。
2. 主題設定の理由／中学生に性的な欲求が生じるのは自然であり、健康な証拠であるが、欲求のまま行動することがあってはならないことを認識して理解する。
3. 指導目標／健全な男女交際について考える。・安易なSNSを活用した男女交際に注意し、性被害や性犯罪を回避するためにできることを考える。
4. 展開

	学習内容・活動	指導上の留意点
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習のふりかえりと本時の学習のねらいを確認する。 ・男女交際について前時とは違った角度から考えてみる。 発問1：「中学生は、男女交際の相手とどこで出会う可能性があるか」 発問2：「中学生の男女交際の相手として、考えられる年齢は？」 ・男女交際についての自分のクラスの人の認識を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時のふりかえりとして * 「男女交際に興味があるか」「男女交際をしたいか」についてのアンケート結果をもう一度確認させる。 * 意思の決定とはどんなことだったかをふりかえらせる。 * ワークシートを配布し、自分の考えを記入させる。 * 教師がワークシートを一度集め、おおまかに回答の内容を紹介する。

～以下省略～

5. 配慮事項

- ・傷つく生徒が出ないように、言葉は慎重に選択し、発言する。
- ・意見を言うことや、考えることはごく自然なことであり、恥ずかしいことではないことをはじめに説明する。
- ・周りの人の意見に対して共感する姿勢をもち、他者の価値観を認めることを初めに説明する。自己の発言や行動・考えが安易であること気づかせる。

アクティブ・ラーニング型の授業を実施

3学期のある日、性に関する指導の授業が各学年、各学級ごとにいっせいに行われた。授業は前時の振り返りと、本時のねらいの確認から始まって、自己学習をしたのちは、課題についてグループに分かれて討議を行う。東京都の指定を受けて、道徳の一環として行う性教育も、新学習指導要領が目指す生徒が主体となる「アクティブ・ラーニング型」の授業を実施するようになった。

これにより、生徒たちもグループでの話し合いに積極的に取り組み、クラス全員で考えを共有できるようになった。

授業終了後は、教員全員が集まり授業の振り返りを徹底する。その後は、堀内比佐子講師による講評と講義が行われた。

すっかり定着した性教育の取り組みだが、「まだまだ課題はあります」と渡辺前校長。

「たとえば、アクティブ・ラーニングについていえば、生徒たちは何に基づいて合意形成されているかが重要。道徳的心情的なものだけではなく、科学的、心理学的側面からみてもこういう理由があるから、その行動はよくないという深みのある発表まで至らないといけない。これにはやはり授業者の努力が必要です。

また、教師間で性教育の捉え方が違うと、結論に微妙に差が出る。このことも今後の課題のひとつです」。

性教育を組織的に計画・立案して実施、反省を踏まえ改善しながら次の授業につなげていく——9年かけて築きあげた性教育の取り組み。校長や教師が代わっても、「生き方につながる性教育」が脈々と受け継がれ、教員一丸となって実践されることに期待したい。

（取材・文 エム・シー・プレス 中出三重）

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

私が私を愛するために

“隠れビッチ”とは、清纯派に擬態し、男にチャホヤされるのが生き甲斐のクズ女。褒め言葉と大げさなリアクション、微笑みで男をロックオンしながらヤラせない。著者による“隠れビッチ”の定義と“必勝ルール”の内容は、あまりにもベタな昭和風ブリッコ。今でも通用するのか……という軽い衝撃と納得を感じつつ、しかし、本書は“モテるための指南書”にあらず。「チャホヤされたい」「愛されたい」という著者の欲望は、痛みを伴う気づきを経ながら、父親のDVにさらされた幼少期の頃の心の叫びに重なっていく。これは、自分の欲望やコンプレックスと闘い続け、自分自身を愛するまでの壮絶な回復記である。

男からの誘いと告白。どんなダメ男でも、それが自信をチャージしてくれる「心の養分」であり、生きがいであった著者。しかし、東の間の喜びと満足は「もっと愛されたい！」という渴望に変わり、孤立と自己嫌悪による“悲しみの無限ループ”へ。幼い頃からの「認めてほしい」という欲求が、愛されている錯覚を求め続けてしまう。

ともすれば、自己憐憫に浸り、悲劇のヒロインになりかねないところを、筆者はどこまでも自分に向き合い続け、逃げ出したくなる心の内と闘い続ける。そして、友人たちは、彼女のビッチぶりを「クズね！」とバツサリ切り捨てながらも、「そんな自信って本当に意味があるの?」「もうちょっと自分のこと愛してやりなさいよ」と語りかけ続ける。すぐには伝わらない言葉が彼女のなかで反芻されるとき、事態は少しずつだが前進していく。

“隠れビッチ”として男の下心を見透かせるのは、父親の顔色を見ながら生きてきたがゆえの特技。サトラレ男たちを嗤いながら、「こんな特技、欲しくなか



“隠れビッチ” やってました。

あらいびろよ著
光文社（2016年9月）
定価 1000円+税

ったなあ」とつぶやく哀しみが切ない。自分の感情に気づくほど、感情に振り回されていく苦しみ。愛を求め一方で、男に求められると湧き上がる怒りと苛立ち。「つまんねえ話に付き合ってやってんだから、ちゃんと気分よくさせろよ」「男の承認欲求をそれなりに満たしてやるから、私を助けてろ」

助けてろ！ その心の叫びは、しかし、誰にも届かない。誰も彼女を助けられない。自分を救えるのは自分だけなのだ。「からっぽの自分を満たすために人の心をつまみ食いして責任をとらない」自分が、家族を傷つけてきた父親の姿と重なることも、父親の血が流れている事実を受け入れるのも、そして悪くないはずの母親を責める気持ちがあることも、すべて自分が受け入れていくしかない。

愛情を確かめずにはいられず、恋人の気持ちを試したり、わがままを通そうとしてしまうこと。虐待の連鎖は止められると思っていても、夫にかわいがられる子どもをうらやんでしまうこと。幼少期にDVや虐待を経験した人で、同じような体験を持つ人は少なくない。

過去のつらい体験を水に流すでもなく、武勇伝にするのでもなく、ただ受け入れていくのは容易ではない。“自分にしかできないことだが、自分だけではできない。”これは回復の共同体（Therapeutic Community）の実践で語られるものだが、本書はまさに友人や夫との関係性に支えられながら、一人で果敢に闘い続けた著者の姿が描かれている。一人だけれど、独りぼっちではない。ときに、ヤリマンの女友だちを心配し、叱咤しながら。ゲイやレズビアンの方に呆れられ、説教されながら。そして、「前向きに自分の弱さと戦ってくれるなら信じます」という夫に見守られながら。

彼女は自分の欲望と闘い続けることを決意し続ける、何度も。そんな彼女のこじらせぶりが泣けて、未来を切り開いていく強さに泣ける、何度も。

（大阪大学大学院准教授 野坂祐子）

全国性教育研究団体連絡協議会

▶ 8月8日(木) 13:00～19:00

◀ 8月9日(金) 9:30～15:45

第49回 全国性教育研究大会

第29回関東甲信越静地区性教育研究大会

第32回ちば思春期研究会

テーマ

夢をはぐくむ性教育

プログラム

- 1日目**：13:00～13:50 **開会行事** 挨拶・祝辞・開催地報告・次期開催地挨拶
 14:00～14:50 **基調講演** 「新学習指導要領を踏まえた性教育の取り組み（仮題）」横嶋剛
 （文部科学省初等中等教育局健康教育・食育課健康教育調査官）
 15:00～16:00 **記念講演** 「HPVの最新情報」（仮題）川名 敬
 （日本大学医学部附属板橋病院産婦人科部長）
 16:00～16:45 「HPV感染予防教育模擬授業」赤澤宏治（千葉県立千葉工業高校保健体育科教諭）
 17:00～19:00 **懇親会** スカイバスケット（21階）（会費5000円。参加自由）

- 2日目**：9:30～12:00 **分科会**
 「小学校における性教育の実践」 「中学校における性教育の実践」
 「高等学校における性教育の実践」 「特別支援学級・学校における性教育の実践」
 「関係機関等の立場からの取り組み」
 13:15～15:45 **課題別講座**
 「新学習指導要領からの性教育～集団指導と個別指導～」
 野津有司（筑波大学教授・筑波大学附属中学校校長）
 「学校で配慮と支援が必要なLGBTの子どもたち」
 日高庸晴（宝塚大学看護学部教授）
 「虐待（性的虐待を含む）現状と対策」
 桐岡真佐子（千葉市児童相談所所長補佐）
 「SNS（コミュニティサイト）に起因する性暴力被害の現状と対策」
 宮崎豊久（横浜市教育委員会学校課題解決支援チーム専門家）
 「『第8回青少年の性行動全国調査』からみえてくる若者像」
 石川由香里（活水女子大学健康生活学部教授）

会場 TKP ガーデンシティ千葉（千葉市中央区問屋町1-45 カンデオホテルズ千葉内）

定員・締切 定員・締切／300名・令和元年7月13日（金）締切（定員になり次第締切）

参加費・問い合わせ先等

参加費／両日参加：一般6000円、学生2000円、1日参加：一般3000円、学生2000円

主催／全国性教育研究団体連絡協議会、関東甲信越静地区性教育研究大会、ちば思春期研究会

協賛／日本性教育協会 後援／内閣府、文部科学省、厚生労働省ほか

問合せ先／ちば思春期研究会・大会事務局 赤澤宏治

TEL090-9829-9778 FAX 043-234-1136



6月15日(土) 13:30 ~ 16:30



北東北性教育研修セミナー 2019

なんでないの?! を、声にするために

講師 福田和子 (#なんでないのプロジェクト代表)

WAS (世界性の健康学会) Youth Initiative Committee 委員、国際 NGP JOICEPLADY.ACTIVIST、性の健康医学財団機関誌『性の健康』編集委員。国際基督教大学入学後、日本の性産業の歴史を学ぶ。その中で、どんな法的枠組みであれば特に女性の健康・権利が、置かれた状況に関わらず守られるのかということに関心を持ち、学びの軸を公共政策に転換。その後、スウェーデンに1年間留学し、そこでの日々から日本では誰もがセクシャルヘルスを守りにくい環境にいることに気づき、帰国後「#なんでないのプロジェクト」をはじめ。以降、アドボカシーに重点を置きつつ、講演や執筆活動を通して、私たちはもっと守られてもいいはずの存在と伝えている。

TIME TABLE

- 13:30 ~ 14:45 福田和子さんトーク
- 14:45 ~ 15:00 休憩
- 15:00 ~ 16:00 ワークショップ「わたしたちの“なんでないの?!”」
- 16:00 ~ 16:30 なんでないの発表

会場 新町キューブ 3F (青森市新町 2-6-25)

参加費・申込み先等

- ◇参加費：26歳以上 500円 (26歳未満無料)
- ◇主催：北東北性教育研修セミナー実行委員会 ◇協賛：日本性教育協会
- ◇申込先：rc-net@goo.jp メール、または郵送で青森県青森市安方 1-3-24 北東北性教育研修セミナー実行委員会へ
氏名 / 連絡先 / 所属先 (ある場合) / 参加費区分を明記して。

6/30 (日)

9:40~18:00

第14回 思春期ピアカウンセラー[®] 養成者養成セミナー

【プログラム】

- 午前 9:50 ~ 12:30 : オープニングエクササイズ・グランドルール、ピアカウンセリング事業の目的と具体的な展開、ピアカウンセリング振り返り (8つの誓約、アクティブリスニング、ミニ コ・カウンセリング)。
- 午後 13:30 ~ 18:00 : 思春期ピアカウンセラー[®]養成プログラムの構成と内容 (展開の上での留意点、プログラムの意図と目的)、構成的グループエンカウンター総論、構成的エンカウンター演習、思春期ピアカウンセラー[®]認定養成者の役割、ほか。

【講師】 高村寿子 (自治医科大学名誉教授 / 日本ピアカウンセリング・ピアエディケーション研究会代表) ほか

【会場】 首都大学東京秋葉原サテライトキャンパス B教室
(東京都千代田区神田 1-18-13 秋葉原ダイビル 12階 1202)

【問い合わせ・申込み先等】

主催：日本ピアカウンセリング・ピアエディケーション研究会 後援：日本性教育協会・日本家族計画協会
受講料 / 10,000円 (税込)
申込み先 / 下記メールアドレスに、①名前 ②連絡先メールアドレスを記入の上、6月10日までに。
Eメール：supervisor@jpcaea.net

若者の性にかかわる行動、規範意識、情報源などが、この6年間でどのように変容したかがわかる。若者の性を理解するための必須の資料！

緊急出版！！
全国調査による
最新のデータ

青少年の性行動

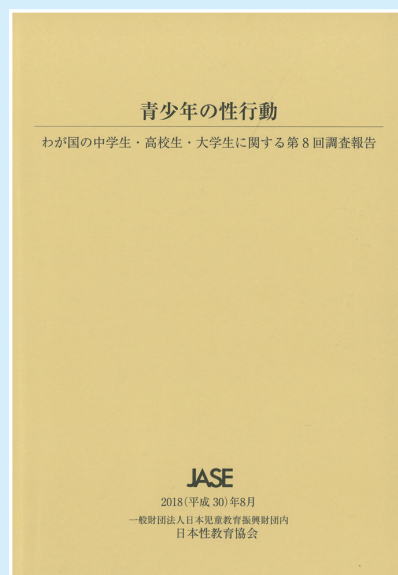
わが国の中学生・高校生・大学生に関する第8回調査報告

編集／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）
「第8回青少年の性行動全国調査」委員会

日本性教育協会では、1974年に第1回調査を開始し、以来ほぼ6年ごとに「青少年の性行動全国調査」を行ってきました。日本の青少年の性行動や性意識の変化を全国規模で把握することができる貴重な調査データとして国内はもとより国際的にも認知されています。

このたび、2017年6月から同年12月にかけて実施した「第8回青少年の性行動全国調査」の単純集計がまとまりましたので、一次報告として刊行しました。主要な結果「デート経験」「キス経験」「性交経験」などの解説と、全質問の中学生・高校生・大学生の男女別集計結果が掲載されています。

※なお、今回の調査に詳しい分析を加えた報告書『「若者の性」白書 第8回青少年の性行動全国調査報告（仮題）』につきましては、2019年刊行予定です。



A4判 80ページ

頒価：1,000円

送料は別途。詳しくはJASEウェブサイトを確認してください。

JASE ウェブサイトよりお申し込みいただけます！

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/seikoudou8.html>

※インターネット環境にない場合は、JASE(電話 03-6801-9307) までお問い合わせください。

●本書に関するお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

一般財団法人 日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-3-23 春日尚学ビル B1

TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478

Mail info_jase@faje.or.jp URL <https://www.jase.faje.or.jp>



JASE